

自彊前進

題字 西村直子

NO. 23 令和5年9月22日(金)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと
(校歌3番の文言から)

教育実習生の日誌より

演劇発表会が終わり、1週間が経ちました。行事に向け、自分たちの課題を明らかにし、その課題解決に向け、皆で努力しましたね。当日は素晴らしいパフォーマンスで、多くの人に感動を与えました。この経験を日常の活動に是非生かしてほしいです。

教育実習が3週を終え、いよいよあと一週間となりました。当校には教育実習生のみならず、多くの人たちが訪れます。そのたびに、皆さんの授業の様子を参観したり、一緒に活動したりします。1ヶ月後には研究発表会も控えています。県内外から多くの先生方や教育関係者が訪れます。研究発表会のように多くの方が授業を参観し、ゲストティーチャーを迎え入れて行われる授業などは、『行事』のようなものです。演劇発表会がそうであったように、多くの人に見られることもあり、皆が頑張ります。その姿が感動を誘い、多くの先生方に勇気や希望を与えます。

これに対し、参観者もない、ゲストティーチャーのいない通常の授業は、『日常』です。私はこの『日常』の授業にこそ、ありのままの姿があらわれると思っています。1ヶ月間滞り、授業を担当する教育実習生の授業は『日常』であり、私は毎日の教育実習生の振り返りに注目しています。教育実習生の視点から、皆さんのよさも課題も記載されるので、附中の学級、学年の実態を知ることができるよい機会となります。一部紹介しますので、各学級、学年で目指す姿に向け、貴重な情報としてもらいたいと思います。

～教育実習生の日誌より～

- 演劇発表会の後、片づけが終わった生徒の中には、実習生が行っていた椅子の片付けを自主的に手伝ってくれた生徒がいた。
- 演劇発表会でリーダーシップを発揮している生徒を他の生徒たちがフォロワーとして支え、一丸となって演劇を創り上げている姿に感動した。
- 授業において、指名をしなくとも、積極的に発言する生徒が多く、すごいと思った。
- 自分のつたない授業だけれど、3年生は一生懸命取り組んでくれ、とても嬉しかった。
- △ 授業中に大事な説明をしているのに、タブレットでゲームをしている生徒がいた。注意する生徒もいれば、注意しても無駄だと諦めている生徒もいる。難しい場面だと感じた。
- △ 作業が終わった生徒の中に、他教科の勉強をしていた生徒がいたので、授業に関係のあることをしようと声を掛けたら、「人に迷惑をかけていないから」と言われ、対応に困った。
- △ 演劇発表会後の教室環境が荒れていた。ロッカーの上に演劇の道具や私物が上がっていて、学習する環境になっていなかった。
- △ 清掃用具を振り回して遊んでいる生徒を注意したら、周りに迷惑をかけていないので、という返事が返ってきた。どのように指導したらいいか悩んだ。

「行事」の姿を^{たた}称える記述は多かったです。

「日常」については、授業における素晴らしい姿が記述されていた一方、タブレットの使用や清掃活動について、課題が記載されていました。

「行事」において、相手意識をもち、あれだけ感動を与えられた皆さんです。「日常」においてその姿を見せてこそ、真の附中生です！日々の目標づくりと振り返りを充実させ、個人、集団として成長していきましょう。

